

～砂田賞～



大島 祐

略 歴

昭和42年4月18日生
平成7年3月 岡山大学医学部卒業
平成7年5月 岡山大学医学部附属病院心臓血管外科 入局
平成7年5月 岡山大学医学部附属病院第二外科 医員（研修医）
平成7年8月 国立岩国病院外科 研修医
平成9年8月 医療法人清幸会土肥病院心臓血管外科 医師
平成10年4月 岡山大学大学院医学研究科博士課程 入学
平成18年3月 同修了
平成15年4月 岩手医科大学第三外科 助手
平成18年4月 岡山大学医学部・歯学部附属病院心臓血管外科 医員
平成19年8月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科心臓血管外科学
助教
現在に至る

研究論文内容要旨

心臓移植でドナー心の保護に用いる心筋保護液は、多様で心筋保護効果に議論の余地がある。一般的保護液の保護効果を心臓力学・エネルギー学的に検討した。セントトーマス病院第二液（STH）、ウイスコンシン大学液（UWS）、Celsiorのいずれかで保存後、イヌ交叉灌流摘出心臓標本を用いて収縮性（Emax）、酸素消費量—全機械的エネルギー関係（VO₂-PVA関係）、Emaxの酸素コストを虚血のない正常心と比較した。

EmaxはSTH群、UWS群で有意に低下、Celsior群では正常心と差はなし。VO₂-PVA関係の直線の傾き、切片はすべて差はなし。Emaxの酸素コストはSTH群、UWS群で増大しCelsior群では正常心と差はなし。現実的心臓移植の急性期モデルにおいて3つの保護液でVO₂-PVA関係はよく保持された。STH、UWSでの保護後ではより酸素を浪費する特徴を示したが、Celsiorでは正常心と差がなかった。心臓力学・エネルギー学的にCelsiorの優れた保護効果が示された。